

ミャンマー文化・スポーツ交流ミッション  
提言

2012年7月

# 目次

## 1 提言

- (1) ミッション派遣の経緯・目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 政策提言（総論）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- (3) 分野別の現状と具体的提言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

## 2 資料

- (1) 団員・随員一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- (2) 日程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- (3) 新聞記事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- (4) 写真・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

# 1 提言

## ミャンマー文化・スポーツ交流ミッション (報告と政策提言)

### 1. ミッション派遣の経緯・目的

- 2011年3月の民政移管以降、ミャンマーでは国民和解と経済発展を国策の課題として改革・開放が急速に進展し、諸外国との関係も大きく改善しつつある。ミャンマーの地政学的重要性、豊富な天然資源、勤勉で親日的な約6千万人の国民等を考えれば、日本としても、ミャンマーの改革・開放を支援し、あらゆる分野で二国間関係を強化することは、きわめて重要である。
- 我が国は、昨年6月、二国間関係の新しいページを開くため、菊田外務大臣政務官(当時)をミャンマーに派遣した。それ以降、一年の間に、ワナ・マウン・ルイン外務大臣の訪日、玄葉外務大臣のミャンマー訪問、テイン・セイン大統領の訪日等により、政府レベルの交流は着実に進展している。また、経済分野においても、日本企業のミャンマーへの関心はきわめて大きく、大統領の訪日に際し、累積債務問題解決の道筋が合意されたこともあって、インフラ分野をはじめとする経済協力、さらには民間投資が本格的に期待されるようになってきている。いま必要なことは、こうした政治・経済における交流と協力の国民的基盤として、相互の尊敬の上に、広範かつ強靱な相互理解・相互信頼の関係を構築することである。文化、スポーツ、学術等の分野における交流の意義はここにある。
- これに鑑み、政府は、今般、白石隆政策研究大学院大学学長を団長とし、各分野の第一人者といえる人々を団員とする「ミャンマー文化・スポーツ交流ミッション」を、6月26日から7月2日まで、ミャンマーに派遣した。政府およびNGOはこれまでもすでに留学生、研修生の受入れ、コーチの派遣等の事業を継続的に実施しており、日本留学経験者の中には、大臣、副大臣クラスの要職に就いている人も少なくない。本ミッションとしては、これまでの実績も踏まえ、これからの日本・ミャンマーの交流のあり方について、できるだけ幅広く、また具体的な提案を行いたい。
- 本ミッションは、ミャンマー訪問に際し、テイン・セイン大統領をはじめ、ミャンマー政府要人、各分野のミャンマー人専門家、ミャンマー駐在の日本人と幅広く意見交換するとともに、文化・スポーツ交流事業を実施した。テイン・セイン大統領が本ミッションの接遇に約1時間半を費やしたことに如実に示されるように、ミャンマー政府の対日関係強化にかける熱意と期待にはきわめて大きいものがある。本ミッションとしては、この熱意と期待に応える提言を提出したい。
- 本提言はミッションの主たる成果である。われわれミッションのメンバーとしては、本提言の諸点が迅速かつ着実に実施され、両国関係の国民的基盤の強化に資することを心から期待する。

## 2. 政策提言（総論）

ミッションの全体的提言は以下の通り。

### （1）日本からの発信体制強化の必要性

ミャンマーでは、文化、スポーツ、学術等の分野においても、日本への期待と関心は大いに高まっている。しかし、ミャンマーに日本の政府機関として設置されているのは、大使館、JICA事務所、JETRO事務所であって、国際交流基金事務所は設置されていない。日本としては、文化、スポーツ、学術等の分野における交流強化のために、体制整備を迅速に進める必要がある。

### （2）ミャンマーとの協議体制の構築

これまで文化、スポーツ、学術等の分野における交流・協力について、ミャンマーとの間に協議・調整の場は特に設けられていない。しかし、本提言のフォローアップ、さらには文化、スポーツ、学術等の分野における交流・協力の中長期的観点からの推進のためには、両国関係当局間の協議の枠組みを構築する必要がある。

### （3）人材育成分野における支援手段の多様化、連携の必要性

これからのミャンマーの国づくりには人材育成が鍵である。その意味で、学术交流、大学交流、知的交流、日本語教育、留学生受け入れ、文化芸術交流等の推進とそれを通じた人材育成はきわめて重要である。日本としては、これら文化・芸術分野の専門家や活動の現場を支える技術者を育成し、日本とミャンマーによる事業の共同実施、作品の共同制作、成果の発信などの文化協力プログラムを立ち上げ、民間の研修プログラム等も活用しつつ、官民一体で、人材育成を推進していく必要がある。なお、人材育成、交流においては、JICA ボランティアの派遣、日本の支援で作られたインターネット・スクール（school on internet）の活用に加え、JENESYS後継プログラムの活用、国費留学生の受け入れ、行政官の実務研修等の実績、さらにはJICAが計画・実現を進めている日本センターの活用を含め、格段の支援を行うべきである。

### （4）双方向性確保のための支援策の検討

文化、スポーツ、学術等の分野における交流は双方向でなければならない。その意味で、ミャンマーの豊かな歴史と文化を日本国民に紹介し、遺跡・文化財保護についてのミャンマー政府の取組みを支援することも、日本・ミャンマーの文化交流においてきわめて重要である。国際機関のミャンマー支援は長期にわたって制限され、それも一つの理由となってミャンマーの国際化と国内改革は最近まで進展しなかった。ミャンマーの改革・開放の一層の進展のためには、日本独自の支援に加え、ミャンマーが国連関係機関等の国際機関から支援を受けられるよう、日本としても積極的に努力すべきである。

### （5）文化活動の基盤となるインフラ整備の支援とコンテンツの提供

日本・ミャンマーの文化交流活動を継続的かつ長期的に発展させるには、文化ホールの建

設などのインフラ整備、そこからミャンマー国民に発信されるコンテンツの供給、コンテンツ制作のサポート等、ハードとソフトの両面からの基盤整備支援が求められる。そこで鍵となるのは、ハードとソフトの両面で、基盤を整備し運営し発展させていく、官民一体となった人的ネットワークに支えられた自律的運営システムの構築である。これがあってはじめてソフトの安定供給が中長期的に保証され、音響・照明、IT など、文化産業を支える分野において、新技術、グローバルマーケットに対応できる人材の養成が可能となる。

### (6) 対東南アジア文化外交戦略の構築

2013年は日本・ASEAN 交流40周年にあたり、日本と東南アジア諸国の交流の機運が、草の根レベルも含め、一層盛り上がるのが期待される。政府としては、これを機会に、民間の協力も得つつ、オール・ジャパンとして、東南アジアに対する文化外交戦略を国家戦略の一環として検討すべきである。

## 3. 分野別の現状と具体的提言

### ア 教育インフラ、日本語教育

#### <現状>

- 日本政府はこれまで、国立外国語大学（2カ所）に対し、日本語教育用機材を供与し、最近も日本人技術者の派遣によって機材面の支援を行っている。また、国際交流基金は、1990年度から2011年度にかけて、のべ50名以上の教員に対して日本語教師研修を実施し、日本語教材の寄贈等の支援も行ってきた。一方、ミャンマーでは、最近まで、両外国語大学への日本人の日本語教育専門家の派遣は難しい状況にあった（国際親善文化交流協会が1年前まで派遣していた日本人教師は日本語教育の専門家ではなかった）。しかし、ヤンゴン外国語大学では日本語学科修士課程の設立を準備中であり、学部教育もこれまでの3年から4年課程にカリキュラムを再編成中である。
- ミャンマーには民間の日本語学校が多数存在するが、その質は不均等で、日本人教師が教える学校は限られている。また最近では、テレビ・雑誌等における「韓流ブーム」の影響もあって、韓国語学習者の増加がみられる。なお、米国、英国、フランスは、大使館併設施設において語学教育を実施している。
- ミャンマーのインターネット環境はきわめて脆弱で、インターネットによる情報収集は困難である。また、日本語教材（教科書など）はほとんど出回っておらず、高価で、一般学習者が入手するのは難しい。
- 今次ミッションのミャンマー訪問に際し、これまで国際交流基金の各種研修・招聘プログラムによって訪日したことのあるミャンマー人日本語教師の人たちとミッション・メンバーの会合の機会が設けられた。これはミャンマーの教育現場におけるこれら日本語教師の人たちの活動の現状を学ぶ上でも、また訪日プログラムの効果を確認する上でも、大いに意義があった。
- また、元日本留学生協会（MAJA）が、同協会の傘下にMAJA日本語教育センターを新たに立ち上げたとのことで、これはミャンマーにおいて再び、日本語教育への関心が高まっていることを示すものといえる。

- ミャンマーにおける教育の課題は、初等・中等教育の水準向上にあり、英語以外の外国語教育を初等・中等教育に導入する状況にはない。
- 高度の日本語能力と日本の企業経営を理解する中間管理職、技術者等の不足は現地に進出している日本企業によって常に指摘されるどころであり、日本企業の即戦力となる人材の育成が急務である。

#### <具体的提言>

- ヤンゴンとマンダレーの国立外国語大学、さらには元日本留学生協会（MAJA）付設の日本語学校への日本人の日本語教育専門家の派遣、ヤンゴンとマンダレーの国立外国語大学に対する4年制学部および修士課程のカリキュラム編成への助言、技術系の大学における日本語教育への助言、日本の支援ですでに設立されているインターネット・スクール（school on internet）の活用。
- 各種日本語教育機関への日本語教材の提供。
- 日本語教師の日本での研修機会の拡大。
- （学会、教師会といった形で）日本語教師グループのグローバル・ネットワークへの参加を招致する。
- 日本語スピーチコンテストの継続的实施および成績優秀者への訪日研修の機会の提供。

### イ 日本研究・知的交流

#### <現状>

- 過去10年間、10人程度のミャンマー人が国際交流基金の日本研究フェローシップを付与された。また、国際交流基金が2008年にまとめた東南アジア日本研究者調査ではミャンマーの日本研究者として20人が掲載されている。
- 日本とミャンマーの有識者の知的対話はほとんど実績がない。

#### <具体的提言>

- 今日では東アジア／アジア太平洋地域の一般的理解なしに日本を理解することは難しい。その意味で、ミャンマーにおける日本研究と知的交流の促進においても、日本、さらには広くアジア地域の研究に関心のある研究者を同定し、国際交流基金の日本研究フェローシップなどを活用しつつ、ネットワーク作りを行う必要がある。
- ミャンマーにおける日本（アジア）研究の推進、知的交流の促進においては、日本の大学・研究機関との共同研究、交流プログラム、JICA、JETRO、その他の協力プログラムも積極的に活用する。
- 知的交流促進のため、ミャンマーにおいて社会的影響力のある有識者を同定し、日本に（短期）招聘する。
- 東南アジア諸国と日本とのマルチの交流事業を活用し、ミャンマー知識人の東南アジアの知的コミュニティへの参加を促す。
- ミャンマーの国造りのためには、日本としても、経済改革、社会開発、法制度を含むガバナンス改革、制度設計等、きわめて多岐にわたる分野において、知的交流を促進し、知的・技術的支援を提供する必要がある。これに鑑み、経済改革支援のため、2003年の経済

構造調整政策支援調査の後継プログラムなど、各分野における知的交流と支援の促進に向けて、日本とミャンマーの両国関係機関の調整を加速する。

- 学術交流促進のためには大学が自らの判断で学術交流を推進できることが望ましい。日本としても、これを念頭に、日本・ミャンマー間の大学交流が一層進むよう、研究交流、交換留学生制度の拡大等を促す。

## ウ 留学生交流、人材育成、青少年交流

### <現状>

- ミャンマーでは、国造りに向けて、政府および企業（特に中間管理職クラス）の人材育成が急務となっている。
- これからの経済開放、外国資本の流入を考えれば、製造業、サービス、観光、医療、IT、文化等、きわめて多岐にわたる分野において、国際的に通用する人材を育成する必要がある。
- 日本ではミャンマーの改革・開放の動きはまだ十分認識されておらず、ASEANの国々の中でも、まだ「遠い国」というイメージが強い。
- 2007年に開始した21世紀東アジア青少年大交流計画（JENESYS）は、アジア太平洋地域の国々の次代を担う青少年の交流を推進し、相互理解を深めることに大いに貢献してきた。また、日本は、東日本大震災を受け、日本再生についての理解増進のために、2013年3月までに、ミャンマーとの間で225人の青少年交流を「キズナ強化プロジェクト」として実施する予定である。
- 東アジアの他の国々と同様、ミャンマーでも、若い世代にとっては、生活文化、ファッション、アニメなどが最大の関心事であり、若い世代の人たちが各種ジャンルにおいて、自らの才能を伸ばし、将来の職業・職種に結びつけていくことが望ましい。しかし、現状では、そうした教育のシステムは全く未整備の状態にある。
- 無形文化財保護（特に生活文化及び舞台芸術分野）において、民族衣装、民族芸能を教える教育施設（文化芸術大学）はあるが、舞台演出、舞台照明、演出（表現方法）を教える教育施設は存在しない。文化財保護の分野においても人材の不足には深刻なものがある。

### <具体的提言>

- 国費留学生制度、行政官を対象とした人材育成奨学計画（無償資金協力）などによってミャンマー人からの留学生の受け入れを拡大する。
- 人材育成を主眼にした短期（2～3週間）、中期（約半年）の研修スキームを活用して、ミャンマーの国造りを担う幹部（候補）行政官、大学の中堅・若手教員、企業の幹部候補等への各種研修事業を迅速に実施する。また、実施においては、JICA、JETRO、その他の機関、さらには国際研修協力機構（JITCO）の技能実習制度、海外産業人材育成協会（HIDA）など、民間の人材育成プログラムも視野に入れつつ、官民一体で人材育成を推進する。
- 文化交流、スポーツ指導、文化遺産保存修復、さらには工芸・美術、パフォーミング・アーツ、映像、ファッション等、きわめて多岐にわたる分野において専門家、技術者を養成する。提言（総論）（5）で述べた通り、文化インフラの整備は、こうした専門家・技術

者の養成があってはじめて、本来の意義を達成できる。

- 日本ミャンマー人材開発センターを早期に立ち上げ、ビジネス人材を育成する。
- 大学への留学に加え、ミャンマーを含む東南アジアでニーズが高い専門学校（料理、ファッション、アニメ、ゲームほかのソフト開発等）への留学生の拡大に向け、政府として、出入国管理上の障壁の軽減を含め、府省横断的に取り組む。また、将来の課題として、日本・ミャンマーEPAについても検討すべきである。
- 現地商工会などを通じ、ミャンマー人職員を対象とした企業奨学金の創設や活用を奨励する。
- 人物交流強化のツールとして、JICAによるボランティア派遣はきわめて有効である。まずはシニア・ボランティアを派遣し、JOCV（青年海外協力隊）派遣取極の締結交渉を開始する。こうしたボランティアの派遣によって、文化、スポーツをはじめ、多くの分野における人物交流が促進できる。
- 青少年交流は相互理解の深化に大いに有用である。JENESYSは2012年7月をもって終了の予定であるが、その後継となるべき青少年交流プログラムの立ち上げを期待する。
- 世界およびアジアの趨勢を考えれば、ミャンマーでは未整備で、職業としても確立していないけれども、「生活文化」の諸分野における教育施設の充実、例えば、「しごとアカデミー」のような教育訓練・人材育成施設の創設はきわめて重要である。日本としてこうした分野における取り組みをミャンマー政府に働きかけることを期待する。また、「しごとアカデミー」創設の暁には、ジャンルに応じ、建築家、ファッションデザイナー、グラフィックデザイナー、アニメ作家、コンピュータープログラマーなどの専門家を講師として派遣することを検討する。更に、こうしたジャンルについても、ミャンマー人の日本への留学を促進する。
- 舞台芸術分野では、例えば国立文化芸術大学のような教育機関と日本側機関との連携を図る。

## エ 遺跡・文化財保護支援

### <現状>

- ミャンマーには、世界が注目する紀元後1～7世紀の「ピュー時代」等の歴史考古遺跡および「バガン」に代表される重要な仏教遺跡群が存在する。ミャンマー政府はUNESCO世界遺産登録に向けて前二者を最優先し、準備を開始している。しかし、ミャンマーには、文化遺産保護に必要な人材、技術、機材、資金等が不足しており、また観光資源として活用するためのインフラ整備等が不十分である。そのため、観光客の急激な増加により、現在の状態のままでは、遺跡環境の悪化を招く恐れがあることから、緊急に対応策をとる必要がある。
- ヤンゴン等の博物館においても展示方法等について専門的知識をもった人材が不足しているだけでなく、収蔵庫等の博物館に不可欠な施設もない。ネーピードーに建設中の新博物館（2013年の開館予定）でも、今後、博物館学等の分野の人材育成支援が重要となる。

- ミャンマー政府は、豎琴などの伝統楽器、少数民族の舞踏・祭儀・口承伝承などの無形文化財について、研究・保存努力に着手している。
- 文化財保護行政の実施にあたり、制度や体制の整備が不十分であるだけでなく、文化財保護に関連する分野全般にわたって専門家が少なく、また、その技術等に関して、グローバル・スタンダードに則っているものとはいえ、新しい技術の移転や導入が必要である。

#### <日本が取るべき基本姿勢と戦略>

- 第一に、ミャンマーの文化財を尊重しなければならない。支援の方針として念頭に置くべきことは、ミャンマー側の文化財の取り組みを支援することであり、双方向性を確保しつつ、その基本はあくまで「ミャンマー人によるミャンマー文化財の保護」を目指す必要がある。現在、ミャンマーの文化財保護に携わる人材は限られており、遺跡等の文化財が損壊や劣化に直面している状況を考えれば、継続的かつ短期、あるいは中長期的人材育成と技術移転を基本とし、スピード感を持って困難な状況を共に克服していく戦略が必要である。
- 文化遺産の保護におけるグローバル・スタンダードや新しい技術の導入を図ることによって、国際社会との対話を促進する。
- 文化財保護と観光産業育成・地域開発が健全な形かつ並行して行なわれるパイロット・プロジェクトを構想する。そのためには、例えば、マスタープランに基づくゾーニングが必要であり、遺跡保存・修復のコンセプトの新たな構築や図面などの作成にあたって、我が国のノウハウ（博物館・美術館の運営と展示を含む）を最大限活用すべきである。
- 技術支援、機材供与、専門家の派遣、ミャンマー人の文化財行政官および博物館の運営や展示を任とする専門官の招聘・研修受け入れ等による中堅幹部の人材育成を推進する。
- 文化財保護活動に関わる機材供与については、単なる機材供与ではなく、人材育成と連携した形式を考えていく必要がある。そのためには、日本人専門家がミャンマーの現場に赴き、研修を実施しながら機材を供与していく（実習付供与）形式を取るべきである。
- ミャンマーの無形文化財の保護や旧市街地の町並み保存等についても我が国からの支援が期待される。

#### <具体的提言>

日本としては、東南アジア最大の文化財を保護する観点から、ミャンマー政府による世界遺産登録の申請を積極的に支援するとともに、人的交流、人材育成、技術移転に焦点を置いた支援を実施する。また、一つあるいは複数の文化遺産を対象とし、実際に共同で保護活動を実施することによって、文化遺産の保護に協力するとともに、実践的な人材育成と技術移転を図る。

#### ●人的交流

文化遺産保護に関わる分野の様々なレベルの専門官や行政官等の交流

#### ●日本人専門家の派遣

文化遺産保護や文化遺産の公開・活用等に係る日本人専門家の派遣

#### ●ミャンマー人専門家招聘

ミャンマーの文化遺産に関する国際シンポジウムや研究会への専門家の招聘、文化遺産

(建築、考古、博物館、図書館等)に携わる専門家の研修のための招聘

●ミャンマーと共同で実施すべき中長期プラン

①学術研究のための両国の研究機関や専門家の交流、共同事業の促進

②人材育成・技術移転のためのワークショップの開催

③文化遺産保護のための共同プロジェクトの実施(対象とする文化遺産については今後ミャンマー政府と協議する)

●機材供与

文化遺産の調査研究・保存修復活動に関する機材の供与。これに関しては、人材育成・技術移転の研修等と連携して行うことが必要である。

## オ 日本の現代文化

### <現状>

ミャンマー国民は歴史的に親日的で、中高年を中心に日本への関心も高い。

●若い世代においても、日本のゲーム、アニメ、漫画(「NARUTO」「犬夜叉」「ドラえもん」「美少女戦士セーラームーン」等)の人気は高く、日本のポップカルチャーのファングループも存在する。2012年3月9-11日、ヤンゴンで開催された『ジャパン・フェスティバル2012』(JETRO主催)の際のコスプレショーも大きな人気を博した。ただし、諸規制の影響もあり、海賊版が多く流通している。

●映画やTVはミャンマーにおいて人気の高い娯楽である。特に、有料デジタル放送や衛星放送を通じて視聴チャンネルが増えたTVの人気は、最近、急速に高まっている。また、過去には、日本映画(「Princess and Photographer」(武田鉄矢主演の「ヨーロッパ特急」(1984年))、「Shogun's Ninja」(真田広之主演の「忍者武芸帖 百地三太夫」(1980年))、日本のTV番組(「おしん」など)が人気を博したが、近年、日本のコンテンツに触れる機会が低下し、その一方、韓国ドラマ、K-POPなどの韓流コンテンツの人気が高まっている。

●2009年にヤンゴンで開催されたコシノジュンコ・ファッションショーは、若者や関係者にとって期待以上の収穫だった。これが今回のミッションでも確認できた。

### <具体的提言>

●J-POP、アニメ、漫画、ゲーム、映画(新作の提供が望ましい)、ファッションなど、現代日本文化・生活を紹介する「日本フェア」等を定期的で開催する。

●現地TV局に対し、現代日本の若者文化を紹介するTV番組(例えば「東京カワイイ★TV(NHK)」 「COOL JAPAN 発掘! かわいいニッポン(NHK)」)、現代日本の生活や文化が見られるようなTVドラマ(例えば「カーネーション(NHK)」)を提供する。また、これまで国際交流基金および大使館を通じて実施されてきた財団法人放送番組国際交流センター(JAMCO)によるNHKおよび民間放送局のTV番組提供活動の継続・拡大も望まれる。(今回、ミッションより最新の提供可能番組カタログを手交した。)

●両国間の文化交流拠点として文化ホールと自律的運営システムを構築し、継続的・長期的に古典芸能から現代若者文化まで、日本のソフトコンテンツの紹介と両国合同イベントの共同開催ができるようにする。

- ミャンマーに国際的な著作権保護条約（ベルヌ条約、万国著作権条約）への加入を促し、すでに現地で人気の高い日本のアニメ、漫画、映画、音楽（CD、DVD、音楽配信）、ゲーム、キャラクターグッズ等の市場展開を支援する。
- 日本のものづくり文化の理解に資する事業（たとえば、「プロジェクトX」「高専ロボコン」「大学ロボコン」「ABUロボコン」などの紹介）によって、先端技術開発の基礎にある日本の文化・社会の現状と特質を紹介する。

## カ 日本食

### <現状>

- ミャンマーでは、昨春、ミャンマーレストラン協会が設立され、日本食レストランの経営者も会員になっている。日本食レストランが増加し、ミャンマー料理やタイ料理のレストランでも日本食メニューが増え、日本の食文化のプレゼンスは拡大の傾向にある。
- ミャンマーレストラン協会からは、（１）日本食の調味料及び食材の共同調達、（２）本物の日本食を提供するための「日本食メニュー」の現場チェックと指導（３）日本食レストラン開設に向けた建築、運営、経営等の技術指導、の３点について要望があった。
- 提供機会が増加している刺身や寿司などのナマモノについて、素材の扱い方や調理・提供等、鮮度管理・衛生管理が十分になされていないという問題がある。日本から調理マニュアル等の教育ツールをミャンマーレストラン協会に送付することを約束した。

### <具体的提言>

- 品質管理や衛生管理を含め、日本食の普及を図る。例えば、ミャンマーレストラン協会との交流を通じて、日本及びミャンマーにおいて日本の食文化、食材開発、人材育成、レストランの経営管理技術等に関する教育研修等を実施し、ミャンマーの外食産業の発展に協力する。
- JR0（日本食レストラン海外普及推進機構）は本年10月、バンコクで開催予定の東アジアを対象にした日本食国際シンポジウムにミャンマーレストラン協会の代表5名を招待する。
- 日本食の基礎である旨味調味料を活用した、身近で手軽に楽しめる日本食を紹介し、米、蒟蒻、納豆など、両国に共通する食材を切り口とした食文化の交流を促進する。また、本年11月には、ミャンマーから7名を招待し、日本各地の食文化に触れる機会を提供する。
- 文化・スポーツの交流の機会には日本食を積極的に提供し、食文化を含め日本の生活文化についての関心・親近感をさらに高めることが期待される。
- 日本の食文化を十分に理解する人材を育成するには、日本の風土で少なくとも四季を一巡できるくらいの期間、日本国内のレストランで実地に研修することが望ましい。また、日本の食文化の普及は、中長期的に、食材輸出等の形で、日本の農水産業の振興にも繋がる。政府としては、現場の声を踏まえ、現行入国管理制度における障碍の軽減等、日本の食文化の世界展開を支援する方策を体系的に推進することが期待される。

## キ 先端技術

#### <現状>

- ミャンマーの人々の日本製品への信頼は非常に厚く、日本は先端技術の国であると受け止められている。
- しかし、日本企業のノウハウを有する人材は極度に不足し、日本の先端技術をミャンマーの国造りに生かす体制は整っていない。

#### <具体的提言>

- ミャンマーにはすでに日本の支援で作られたインターネット・スクール (school on internet) がある。これは本来、コンピュータ・ソフトウェア教育のために作られたものであるが、ミャンマーにおける理系人材の不足に鑑み、科学技術系大学の教育、特に学部レベルの教育に一層、活用されるべきである。
- 日本の先端技術を紹介するイベント（講演会、ロボットショーなど）を開催する。
- ミャンマーの国造り、さらには日本企業のニーズにも応える形で、例えば、高専卒業レベルの技術者が、日本の高等教育機関で学ぶ、あるいは企業で研修するといったスキームを民間との連携の下に整備する。

### ク スポーツ

#### <現状>

- ミャンマーは、2013年の東南アジアスポーツ競技会 (SEA Games) のホスト国として、スポーツ強化に力を入れており、日本も民政移管以前から、柔道、サッカー、空手などの種目でコーチ派遣、器材供与などの支援を行ってきた。しかし、いずれの分野においても機材不足は深刻で、古い機材、中古品なども多く、新しい設備が必要である。
- また、専門的知識を有する指導者・コーチが著しく不足している。

#### <具体的提言>

- 柔道、空手などの日本の伝統的武道を含む幅広い分野（サッカー、陸上長距離など）について支援を強化、拡大する。
- 特に、2013年秋、ミャンマーが主催する東南アジアスポーツ競技会 (SEA Games) に向けて、選手強化を念頭に、器材供与、指導者の派遣、ミャンマー人選手の受け入れを官民挙げて実施する。

### ケ ジャーナリスト・メディア交流

#### <現状>

- 言論の自由は民主化の重要なベンチマークである。ミャンマーではジャーナリストの自由な取材、表現に規制も多く、番組コンテンツも不足している。
- 国際会議の主催とプレス・ロジも経験が不十分で、2014年のASEAN議長国就任に鑑み、対外メディアサービスの向上が急務となっている。

#### <具体的提言>

- かつて日本の援助で建設されたテレビ放送局はすでに施設の老朽化が進んでいる。この改修、補修、部分的施設拡張、あるいは機材供与などをハード面で支援する。

- J I C Aのジャーナリスト研修などを活用し、ミャンマー人ジャーナリストの能力を強化する。
- 日本で国際メディア会議などが開催される機会にミャンマー人ジャーナリストを招聘し人材交流を推進する。
- 国際会議ロジやプレス・ロジを担当するミャンマーの人材育成を奨励し、先方の意向も確認しつつ、日本として支援の可能性を検討する。
- ニュース番組を含む日本の番組コンテンツが一層現地で放映されるよう支援し、一般家庭で最新の日本の現状、日本語に触れることができる環境を整備する。

## 2 資料

## 団員・随員一覧

団長	白石 隆	政策研究大学院大学学長
団長顧問	田島 高志	元駐ミャンマー大使
団員	石澤 良昭	上智大学アジア人材養成研究センター所長
	加藤 一隆	日本食レストラン海外普及推進機構専務理事
	北澤 豪	日本サッカー協会理事
	コシノジュンコ	ファッションデザイナー
	道傳 愛子	NHK 解説委員
	西原 鈴子	国際交流基金日本語国際センター所長
	矢内 廣	ぴあ株式会社代表取締役社長
	山下 泰裕	東海大学副学長
随員	新美 潤	外務省アジア大洋州局兼南部アジア部参事官
	河上 淳一	外務省南部アジア部南東アジア第一課地域調整官
	山口 敦	外務省広報文化交流部文化交流課課長補佐
	小山 智史	外務省南部アジア部南東アジア第一課事務官
	高鳥 まな	国際交流基金海外事業戦略部長
	歳森 真紀	国際交流基金海外事業課上級主任

## 日程

< 6月27日 (水) >

09:30-12:00 市内視察 (シュエダゴンパゴダ、アウン・サン市場等)

①

15:00-16:00 元日本留学生協会との会談 (於: 同協会事務所)

16:00-17:00 元日本語教師研修参加者との懇談 (於: 同上)

②

15:00-16:30 レストラン協会との懇談 (於: パドンマー・レストラン)

③

15:00-18:00 トウン・タウン・ミャンマー柔道連盟会長表敬、柔道連盟訪問・練習視察  
柔道着寄贈 (於: 国立競泳場コンパウンド)

④

15:30-16:00 スポーツスタジアム (トゥワナ陸上競技場) 視察

16:30-17:30 ファッションデザイナー協会副会長との会談 (於: ブティック DOZO)

19:30-21:00 齊藤大使主催夕食会 (於: 大使公邸)

【ヤンゴン日本人商工会議所、JICA、JETRO関係者同席】

< 6月28日 (木) >

07:00 ヤンゴン発

08:00 ネーピードー着

09:30-10:30 ティン・サン・スポーツ大臣との会談 (於: スポーツ省)

11:00-12:20 ティン・セイン大統領への表敬 (於: 大統領府)

12:30-13:20 ワナ・マウン・ルイン外務大臣との会談 (於: 外務省)

13:40-14:30 ソー・ウィン情報副大臣、サンダー・キン文化副大臣との会談 (於: 情報省)

15:30-16:00 サッカースタジアム視察

17:00 「3丁目の夕日」映画上映会 (於: 大使館アセンブリーホール)

< 6月29日 (金) >

06:30 ネーピードー発

- 11:30 ヤンゴン着
- 13:00-14:00 NHKワールド配信開始セレモニー（於：パークロイヤルホテル）
- ①
- 14:30-15:30 ヤンゴン外国語大学学長・日本語学科長及びマンダレー外国語大学日本語学科長との会談（於：ヤンゴン外国語大学）
- ②
- 14:30-15:30 文化芸術大学学長他との会談（於：国立劇場）
- ③
- 14:30-15:30 ハン・タ・ミンNLD執行委員会教育担当との会談（於：NLD事務所）
- ④
- 15:00-15:30 ゴー・ゾー・サッカー連盟会長との会談（於：Max Myanmar 社）
- 16:30 コシノジュンコ・ファッションショー写真展／レセプション開場（於：ストランドホテル）
- 17:00 写真展／レセプション オープニングセレモニー
- 19:00 ミャンマー伝統舞踊鑑賞（於：カラウェイ・パレス）

< 6月30日（土） >

- ①
- 09:30-11:30 山下氏柔道講演（於：パークロイヤルホテル）
- ②
- 10:00-11:30 シュエ・タン・ルイン・メディア社との会談（於：シュエ・タン・ルイン社）
- ③
- 10:00-11:30 国立博物館視察
- 14:30-15:30 記者会見（於：ストランドホテル）

※一部メンバーは7月1日～2日の日程でバガンを視察。

「New Light of Myanmar」 2012年6月29日付け 第16面

「外相、外国賓客を接待」

ネーピードー 6月28日：(中略)

ワナ・マウン・ルイン外相は、白石隆教授が団長を務める日本の代表団を、28日12時半に外務省で接待した。

日本代表団は、日本の様々な分野の著名人22名で構成されている。

同外相と代表団は、ミャンマーの経済開発、人材育成、教育、スポーツ、情報、文化に関する二国間協力のさらなる強化について話し合った。

写真：キャプション：ワナ・マウン・ルイン外相が、白石隆教授率いる日本代表団を接待。

**Union Foreign Affairs Minister receives foreign guests**

**NAY PYI TAW, 28 June**— Under-Secretary-General of the United Nations and Special Representative of the Secretary General for Children and Armed Conflict Ms Radhika Coomaraswamy called on Union Foreign Minister U Wunna Maung Lwin at the Ministry of Foreign Affairs at 8 am today.

They discussed matters related to cooperation in the prevention of the recruitment of under-age from the armed forces between the United Nations and the Myanmar Government.

Similarly, the Union Minister received Adviser to the Foreign Minister of the Islamic Republic of Iran Mr Mohammad Ali Fathollahi at 9.30 am today. During the meeting, the adviser handed over a letter of invitation from the President of the Islamic Republic of Iran to the



*Union Foreign Affairs Minister U Wunna Maung Lwin receives Japanese delegation led by Professor Takashi Shirashi.—MNA*

President of the Republic of the Union of Myanmar to attend the 16<sup>th</sup> Non-Aligned Movement Summit to be held in Teheran, Islamic Republic of Iran. They also discussed matters on further promotion of bilateral

relations and cooperation between the two countries.

Likewise, the Union Minister received Japanese delegation led by Professor Takashi Shirashi at his office at 12.30 pm today.

The Japanese delegation is consisted of 22

eminent members from unski sectors of Japan.

They discussed matters on further enhancement of bilateral cooperation in Myanmar economic development, human resources development, education, sports, information and culture affairs.—MNA

写真

6月27日(水)



スポーツスタジアム  
(トゥワナ陸上競技場) 視察

ファッションデザイナー協会副会長  
(於：ブティック DOZO)



山下氏による柔道指導  
(於：国立競泳場コンパウンド)  
※講道館から柔道衣を寄贈  
※NPO 法人柔道教育ソリダリ  
ティーからTシャツを寄贈

6月28日(木)



テイン・セイン大統領表敬  
(於：大統領)



テイン・サン・スポーツ大臣との会談  
(於：スポーツ省)

ワナ・マウン・ルイン外務大臣との会談  
(於：外務省)



ソー・ウィン情報副大臣、サンダー・キン文化副大臣との会談 (於：情報省)

6月29日（金）



NHKワールド配信開始セレモニー  
（於：パークロイヤルホテル）

北澤氏とサッカー連盟会長ゾー・ゾー氏との会談  
（於：Max Myanmar 社）  
※日本サッカー協会からボールを寄贈



コシノジュンコ・ファッションショー  
写真展／レセプション  
（於：ストランドホテル）

6月30日(土)



山下氏講演「Challenge to your dream」  
(於：パークロイヤルホテル)

記者会見  
(於：ストランドホテル)



7月1日(日)～2日(月)

バガン視察

